

ポリテクカレッジ卒業生の社会人生活

—卒業生からのメッセージ—

九州電気システム株式会社 福岡支店福岡営業工事所

濱口 宗一郎

メッセージを送りたいと思います。

1. はじめに

卒業して、8年。もう9年目がやってこようとしています。振り返れば平成7年3月にポリテクカレッジ北九州（現：九州ポリテクカレッジ）を卒業し、九州電気システム㈱に入社して、紆余曲折ありながら今日を過ごしています。今と比べ短大時代は、授業、卒研に追われながらも、周りの仲間たちと、仲良く勉強に遊びに夢中になっていました。学生時代は、電子技術科に所属しており、電子回路の実習やZ80を利用したソフト作成、C言語等の授業にはかなり頭を悩ませておりました。特に電子回路の実習授業は夏休み返上で取り組んでいました。そんな厳しい時間のなかでも、電子技術科の団結力はめざましく、ソフトボールでは球技大会で優勝しましたし、毎週のようにボーリング場に通い、電子技術科全員で腕の競い合いに精を出したりもしていました。ある意味、時間をかなり有効に利用していたと思っています。今でも電子技術科のOB・OGが集まると、当時と変わることなく同じような時間の過ごし方となるのは、やはり当時の影響があるからなのでしょう。そんな私たちの世代も会社内では、「若手」から「中堅」社員への変化の時期へ差し掛かってきました。会社の内容や仕事の流れなど、社会人として経験すべきものの基本的な事柄を体感し、学習し、今やっと社会人と呼ぶことのできる位置に立っているような気がします。こんな“ちょっと”大人になった卒業生として、社会人を目指す後輩の皆さんへ

2. 会社業務と所属箇所について

当社の業務について簡単に説明しておきます。当社は、JR九州から出資を受けた子会社であり、業種としては、建設業の「電気工事業」「電気通信工事業」に属しています。主な業務内容としては、「建築電気設備」「電車線路設備」「電車信号設備」「電車通信設備」などの多岐の分野に及んでいます。

また会社の特性上、業務において「JR工事部門」と「一般工事部門」の2つの分野に分かれています。このようななかで、私は入社してから1年間は、「JR工事部門」の「電車線路設備」に所属し、主にメンテナンス作業を中心に社会人としての仕事をスタートさせました。しかし、社会人生活は甘いものではありませんでした。一般の車道とは違い「線路内」では、工事をやるからといって電車を止めることはできません。そのため、工事施工はその大半が「夜間」に行われるのです。まさに昼と夜が逆転した生活が始まったわけです。生活の急激な変化に悪戦苦闘しながら毎日を送っていました。それに加えて見るもの聞くもの、すべてが初めてのものばかりで、学習することより、驚かされることの連続でした。今でも鉄道関係の業界用語を初めて聞いたときの不思議な気持ちは忘れません。そんな生活のなかでも、自分が目標としていた業務、「建築電気設備」への熱意もしっかりと心の中にもっており、入社して1年が終わろうとした頃、上司との懇談の機会に恵まれ、

その旨を相談してみたところ、それから話がうまく進み、念願の「建築電気設備」への異動が決定したのです。

3. 今の仕事は……

念願の「建築電気設備」部門で仕事ができるようになったわけですが、ではどのような業務に携わっているかを紹介していきたいと思います。

「建築電気設備」とは、オフィスビルや集合住宅、駅やコミュニティホール、体育館や図書館など多岐にわたるさまざまな建物の内部において、人々の生活を支える照明設備やコンセント設備などの設計、施工を主業務とする仕事です。具体的には以下の業務を行います。

① 施工管理業務

「建築電気設備」における実務のなかの最も重要な業務の1つです。内容としては、

- ・電気設備設計図の内容確認・把握
- ・施主、設計者との利用目的の確認
- ・現場施工図面の作成
- ・電気供給機器の消費電力の確認
- ・電気機器類のデザイン（意匠）の確認
- ・官公庁への諸手続き書類の作成・申請
- ・施工工程表の作成・管理
- ・建築、設備会社との施工調整
- ・諸官庁検査の立会い
- ・竣工図面、竣工書類の作成
- ・竣工検査の立会い

簡単に項目をあげてみましたが、これ以外にも付属する業務が多々ありますが、上記の業務を中心に日々の仕事が行われています。そのほとんどの業務が、関係者との協議により進められるため、毎日のように会議や電話打ち合わせが頻繁に行われている状況です。特に意匠的なものや、施工物が現地のスペースに合致するものかの確認作業は、入念にその作業が行われます。これは建物完成後の見栄えや、レイアウトなど人間の視覚に直接印象を与えるものであり、お客様にとっても建物のデザインを構成するうえで最も重要なものであるからです。

また、電気供給機器類の消費電力の確認業務については、照明設備やエレベーター設備、給水ポンプや空調設備など多岐にわたる生活必需エネルギーの容量を、将来増設の可能性をもクリアできる基準にまで考慮し、算出していきます。また工程管理においては、「この日に何がある」だけではなく、毎日のように変化する建築現場内の状況の把握や、危険箇所の説明・周知、現場内への各業者の資・機材等の搬入予定や、搬入経路の確認、各施工業者の当該従事作業員の人数確認・施工箇所、内容の確認など、細部にわたる内容の把握が必要となっています。



写真1 施工打ち合わせ中



写真2 現場打ち合わせ中



写真3 施工確認中

これは建築現場の特徴といえるもので、異なる業種が同じ箇所で同時に作業を行うことは、調整なしには不可能に近く、この工程を把握し効率的運用を行うことが、施工管理の1つのポイントといえるでしょう。(と、簡単に書いていますが、現場においての調整作業は難航する 경우가ほとんどで、かなり神経を削られるものです……。)

施工管理業務においてもここ数年におけるのOA化はめざましいものがありました。その顕著な例がCADの出現における、製図作業の劇的な変化です。以前は製図作業を行う場合は「手書き」で行っていましたが、今はCADによる製図がそのほとんどをしめます。このCADシステムを利用することにより、建築・各設備の図面の照合や、図面の修正作業、図面管理の省力化などの数々の効率化が図られ、施工管理の効率改善に多大な影響を与えています。会社によっては、このCAD業務を独立させて1部門として運営させているところもあるほどです。

何点か施工管理について抜粋して説明してきましたが、いかがでしたでしょうか。建築作業現場を目にすると、クレーンなどの重機が旋回していたり、鉄骨などの運搬が行われていたり、コンクリートミキサー車が往復したりなどのイメージがあると思いますが、その裏ではこれまでに書いてきたようないろいろな準備作業が綿密に行われ、そのうえに成り立っているのです。少しは建築現場の舞台裏をご理解していただけたかと思いますので、次の業務説明に移りたいと思います。



写真4 CAD作業中

② 安全衛生管理

施工管理とともに現場作業におけるもう1つの重

要な管理業務として、この安全衛生管理があげられます。内容としては、

- ・施工体制台帳の作成
- ・災害防止協議会の実施
- ・現場新規入場者教育
- ・KYM活動の実施
- ・安全指示書の作成
- ・朝礼時の安全指示の実施

主な項目として何点かあげてみました。安全管理については、「だれが」「どこで」「どのような」「作業を行っているか」の5W1H的な要素が含まれています。またこの要素を現場作業に従事される方々に周知徹底させることが、安全作業の第一歩となるのです。現場内における事故発生の原因で多いのは「予定外作業」や「不安全行動」や「離れ駒作業」などによるもので、「自分は大丈夫」「これくらいはいいだろう」などの気の緩みが重大事故発生につながっています。そういったメンタル面教育の実施もこの安全衛生管理の1つとなっています。また施工体制台帳の作成等により、万が一の事故発生時にも関係会社、病院、家族の方との連絡ができる万全の体制をとっています。また作業従事員の方々にも口頭や書類において、日々安全の取組内容の作成・報告をKYMの形で行ってもらっています。

このように、何重もの安全作業のためのチェック項目の実施や管理を行い、安全意識の高揚に努めています。

4. 工事原価管理

現場管理のもう一面の重要な業務の1つなのがこの「工事原価管理」といえます。簡単にいえば、担当工事の金銭管理すべてを指します。担当工事の利益確保のために、工事にかかわる資・機材の購入、管理費の算出、請負工事業者との契約金額の交渉、締結など、原価管理は現場管理者にとって厳しくもあり、やりがいのある業務といえるのではないのでしょうか。資・機材業者や工事請負業者との契約金額をめぐる交渉は、お互いの駆け引きで一進一退を繰り返しの連続で、契約を結ぶまでの日々は胃の痛み

との闘いでもあります。しかしそれも、仕事をするうへでは経験の1つであり、人間を成長させることに大いに役だっているとも思うようになりました。このような過程を経て工事が開始され、作業が進み、施工が完了し、最終的に利益確保ができたときは、やはりうれしく思います。

このように3つの分野に分けて現在の業務について説明させていただきましたが、ご理解いただけただけでしょうか。文章では3つに分けることができますが、日々の業務はこの3点、いやそれ以上のものを一度に複合的に実施していかなければなりません。残業の続くこともしばしばですが、工事の完成のため、従事している作業員の方々のため、日々業務に努力しています。

5. 社会人としての生活とは

社会人としての生活といってもいろいろなパターンがあるので、大変とか普通とかはありません。ただ生活環境はかなり変わると思います。会社に入社した時点で、個人の立場から会社の組織の一員になるわけですから、それだけでも大きな環境の変化です。

また、否応なく仕事のために時間を割くことも度々になると思います。新入社員の間は数々の研修業務にも参加しなければなりません。このように環境の変化はありますが、それが社会人としての第一歩であり、社会人としての教育期間の開始でもあるのです。この教育期間中に「こんなはずではなかった」などの理由で会社を去る人もいます。もし自分がそんな状況になった場合は、少し考えてみてください。そのような状況はこれから働いていく時間からみればわずかな時間ではないか、と。どのような業種であれ新入社員と呼ばれるのは、ほんの1年間なのです。逆にみればそのときにしか体験できないことなのですから、ある意味貴重な時間なのです。ただ無駄な時間にするのではなく、後で振り返ったときに「努力はしていた」と思えるような有意義な時間にしてほしいと思います。

次に、会社に入れば当然仕事を行うわけですが、何の業務であれ、必ず体験、実践してみることが大切だと思います。実践せずに「これは向いていない」とか、「わからない」とかそのようなことは絶対に言わないこと。社会人とはいえ、仕事の初心者なので、何事にも挑戦してみてください。実践したうえで自分の業務に対する適正を判断するように心掛けてほしいと思います。すべてのことが新しいこととなるので、緊張したり慣れないことばかりが多いとは思いますが、それらから逃げることなく「挑戦」して、「経験」という「自信」を身に付けてほしいですね。その「挑戦」の積み重ねが自分を大きくすると思います。

また業務を行ううえで、1つ1つの「作業の流れ」を学習してほしいと思います。最初は何事も指示どおりにやっていくと思いますが、このような業務にもその「流れ」があります。いわば順序です。何度となく同じことをやっていて、それを指示どおりにやっているだけでは、仕事は覚えませんし業務の学習になりません。常に先を考えながら業務に取り組むことを考えながらやっていけば、自然と身に付くと思います。惰性で業務に取り組まないことが大切です。

もう一点注意してもらいたいことは、「広い視野」を持つということ。会社に入社すると自分の所属する部署が中心となるわけですが、意外と限られた環境の中での生活となりがちです。そうすると自分の知らない間に「狭い視野」の人間になり、その環境以外での生活に対応できないような場合が出てきます。そのような状況に陥らないためにも、会社内であっても、他部署の方々とのつながりや交流できる場があれば、率先参加すべきだと思います。また別の会社に就職した友人などとお互いの情報交換などの場を設けることも「視野の拡大」につながり、自分にとってプラスとなることだと思います。決して閉鎖的を送らないように努力してください。

何点か社会人生活についての助言的なことを書いてみました。これを目にしたポリテクの生徒のみなさんの社会人生活の参考になればうれしく思います。みなさん、ガムシャラにがんばれ！